

とらいあんぐる



2019 年 5 月

一音会ミュージックスクール発行

「特殊サギ」

この種のサギがニュースになるようになったのは、10年くらい前からでしょうか。昨年、被害者数が過去最高を記録したそうです。

当初は、「オレオレサギ」と呼ばれていました。

原型はこうです。

「母さん、オレオレ・・・」と、息子を名乗る人物から突然、電話がかかります。はなれて暮らす母親は、息子だと信じてしまいます。

「息子が」というのが、ミソです。

娘ではきつとうまくいかないのです。

一般に、娘に比べ、息子はそうひんぱんに電話をかけません。もし、普段からしょっちゅう電話をかけてくる息子であったなら、「普段」との違いに気づくでしょう。けれども、そういう息子はめったにいません。

もともとあまり電話をしてこない息子だからこそ、違和感に気づきにくく、電話がきたことで、「なにごとか!」と思ってしまう。驚きと動揺によって、さらにいろいろなことに気づきにくくなります。

息子を名乗る人物は、「会社のお金を

落としてしまった」、「車を他人の車にぶつけてしまい弁償しなければならなくなった」といった、もっともらしい理由をつけて、お金を振り込んでほしいと頼みます。

母親は「息子を助けなければ」と、指定された口座に、あわてて振り込んでしまいます。

こうして書きますと、はじめて話す他人をどうして息子だと思ってしまうのだろう、こんな話をどうしてすぐに信じてしまうのだろう、と不思議になります。

ですが、実際には、多くの母親がひっかかってしまいます。

たしかに、夫が実家に電話をしている様子をきいていますと、「ああ、これはマネすることが案外、簡単かもしれない」と思わせる情報量の少なさです。

実によくできた手法なのかもしれません。

今では、息子をよそおう古典的な手法から、さまざまな新種の手口が出てきているようです。

先日、元号が変わった際にも、「更新手続きが必要」などといって、キャッシュカードを回収しようとする手口があったようです。

ほか、「犯罪にねらわれたかもしれないから確認のため」、「還付金を振り込むのに必要」、「手続きの着手金」など、いろいろな話で、カードや現金を出させる手口があるそうです。

ともなって登場人物も、息子だけでなく、弁護士、警察官、会社の上司、示談の相手、銀行員、役所の人・・・と、多彩になっていきます。

でも、ねらわれるのが高齢の、特に女性である点や、電話を主な武器に使う点は、共通しています。

そして今もなお、息子をよそおう古典的手法が、圧倒的に多いそうです。ということは成功率も高いのでしょう。

私もこれから老いる身です。また、誰が見てもあぶなっかしい息子を持つ身として、他人事とは思えません。

私は最近まで、こんなふうには思っていません。

こういう犯罪をなくすには、だまされる側が賢くなって、だまされないようにするしかない。だって、だます人をなくすことなんて、無理だから。

まずは、だまされないように気をつけるべき。もしだまされたなら、それはその人の勉強不足であり注意不足。

だます人をなくすことは不可能でも、だまされる人をなくすことができれば、結果的に犯罪はなくなります。

そんなふうに思っていたのです。多くの方が、そう思っているのではないかと想像します。

ですが、私は最近、あるニュースを目にして、大きく考えを変えました。

テレビのニュースでした。

特殊サギにあったお母さんの息子さん、インタビューにこたえていました。

その方の名前はふせられ、お顔も見えない形になっていました。

その方のお母さんは、数年前に古典的な「オレオレサギ」にあい、長年コツコツためてきた貯金のほとんどを、

サギ師に振り込んでしまったのでした。

サギだったことが判明した時、息子さんは、お母さんにいいました。

「なんで、そんなのにひっかかっちゃうんだよ！」

ここまではよくある展開でしょう。

私が息子さんの立場でも、第一声はそれだったかもしれません。

「なんで、そんなのに！」

つい責める口調になってしまったかもしれません。

でもこの後、思いがけない展開になります。



お母さんは、自分を責め、自らの命を絶ってしまうのです。

インタビュアーは、息子さんにマイクを向け、こうききました。

「今、どんなお気持ちですか？」

テレビ画面の中の息子さんは、突っ立ったままでした。

何もいいません。

顔が見えないので、表情が分かりません。

少し時間があき、その方はようやく声を出します。

「い・・・い・・・いきて・・・いきていて・・・いきていてほしかった・・・です」

ふりしぼるような声でした。

その方が泣いていることが、はっきり分かりました。

その方の「いきていてほしかった」の一言が刺さり、私は頭をなぐられたようなショックを受けていました。

ああ、この方は、「自分がお母さんを不用意に責めたことで、お母さんを死なせてしまった」と思っているの

だ・・・と分かりました。

そう気づいたとたん、その方の感情が、一瞬にして私の中に流れ込んできました。

お母さんは、自分のことを心配してくれた。

お母さんは、長い間、大切にためてきたお金を振り込んだ。

あれこれ考えなかった。

息子である自分を助けようと必死だったから。

それらはすべて、自分を愛するがゆえのことだった。

大事なお金を自分のために振り込んだお母さんを、自分は責めた。

自分がお母さんを死なせた。

お母さんは、最期、何を思ったのか・・・。

画面には、その方の握りこぶしがうつっていました。その方は、犯人ではなく、自分自身を憎んでいるように見えました。

サギ師が奪ったのは、ただのお金でした。

同時に、息子を想う優しい母親を死
においやりました。

息子は自分が母親を死なせたと、生
涯、自分を責めることになりました。

「なんで！」とってしまったのも、
母を想う気持ちからでしょう。

犯罪が、想いあう親子2人の人生を
だいなしにしました。

「気をつければだまされない」、「だ
まされないようにすれば良い」などと
考えていた私は、とんでもなく甘かつ
たと思います。

誰がそのお母さんを責められるだろ
うか？

誰がその息子さんを責められるだろ
うか？

今はそう思います。

子どもを心配する気持ちは、理性を
ふきとばしてしまうものです。

母親の愛情を利用している点が、こ
の犯罪のもっとも罪深い点といえるで
しょう。

テレビでよく観る光景です。

あるコメンテーターがいます。

「どうしてこんなのにひっかかっ
ちゃうんでしょうね？」

「もっと知識をつけて、ちゃんと考
えるべきです。ニュースとかで、こう
いう手口、たくさん報道しているのに、
そういうの、見ないんでしょうか」

「ちょっと冷静に考えれば、おかし
いでしょう？ こんな手口にひっかか
ってはダメですよ」

正論です。

でも、どうかどうか、これを読んだ
方。お身内に特殊サギにひっかかった
人がいたら、だまされた人を責めない
てください。

「残念だったね。でもとられたのが
お金だけで良かった。生きていてくれ
てありがとう」

そういえる優しい人が増えてほしい
と思います。 (江口 彩子)



◆2台ピアノのコンサートにお越しください

客員教授のユージン・プリドノフ先生、エリザベス・プリドノフ先生のご夫妻が来日されます。

以下は、コンサートの情報です。ソロのピアノのコンサートは、よくあるコンサートですが、2台ピアノのコンサートは多くありません。貴重な機会ですので、ぜひ一人でも多くの方に足をお運びいただきたいと思います。

日時：5月25日(土) 16:00 開場・16:30 開演

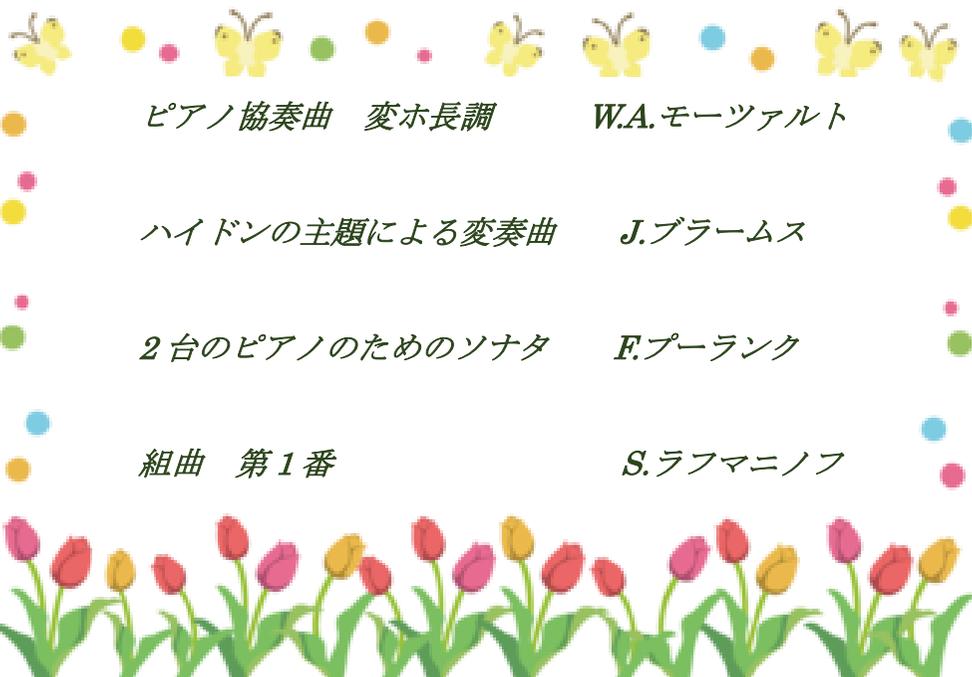
会場：「ひびきホール」

「ひびきホール」は、西武池袋線「東長崎」駅、南口より徒歩7分、「まいばすけっと」の3階です。

中学生以上：2,000円(前売り) 2,500円(当日)

小学生以下：1,000円(前売り) 1,300円(当日)

チケットは、「ショパンはうす」受付で販売しています。



ピアノ協奏曲 変ホ長調

W.A. モーツァルト

ハイドンの主題による変奏曲

J.ブラームス

2台のピアノのためのソナタ

F.プーランク

組曲 第1番

S.ラフマニノフ

◆「おんがくかい」が開かれます

声楽の加藤裕子先生が中心となり、一音会スタッフ有志が出演する「おんがくかい」が、今年も開催されます。小さなお子さまから大人の方まで、楽しんでいただけるコンサートです。会場のお子さまに加わっていただく演目もあります。

日 時 : 6月2日(日)

12:30 開場 ・ 13:00 開演

会 場 : 「ひびきホール」

入場料 : 小学生 500円 (未就学児 無料)

中学生以上の大人 1,000円

出演者 : 齊藤 晃代 (ソプラノ) 一之瀬 綾子 (ピアノ)

田中 亜由美 (ピアノ) 渡邊 麻里 (フルート)

チケットは、出演スタッフ、または「ショパンはうす」受付でお申し込みください。

プログラム

幻想即興曲 (ショパン)

フルート吹きの子守歌 (一之瀬 綾子)

「歌の翼」による幻想曲 (シュテックメスト)

他 みんなで演奏体験 など

◆「第13回ジュニア・コンサート」を開きます

5月26日(日)の「ジュニコン・オーディション」の結果を受け、6月13日(木)に、「第13回ジュニア・コンサート」を開きます。

場所は、西武池袋線「大泉学園」駅北口より徒歩1分、「ゆめりあホール」です。開演は、19:00を予定しています。

「ジュニコン・オーディション」とは、小学4年生から高校3年生までの一音会の生徒さんならどなたでも参加できる、公開制オーディションです。客員教授のプリドノフ先生ご夫妻が審査をおこない、審査に合格した生徒さんが、「ジュニア・コンサート」にご出演なさいます。

審査の厳しいオーディションではありますが、プリドノフ先生ご夫妻から、演奏についての丁寧な講評がもらえます。オーディションの後、コンサートの詳細をポスターでお知らせする予定です。

入場料は、小学生以上の前売りチケット1000円(当日1500円)、未就学児の前売りチケット500円(当日800円)です。「ジュニア・コンサート」のチケットは、当日もお求めいただけますが、シヨパンはうす受付でも販売いたします。

お一人でも多くの方に、応援にいらしていただけることを願っています。

ゆめりあホール

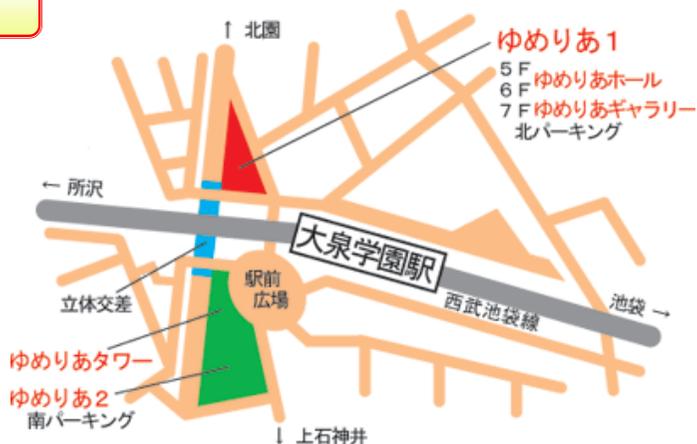
西武池袋線

大泉学園駅 北口から

徒歩1分

ゆめりあ1 ビル内

6階



◆ 夏の発表会にむけて

空前の大型連休が過ぎ、ようやく今年度も正常運転です。新生活が軌道に乗り、皆さまの生活も落ち着いた頃ではないでしょうか。教室も同様です。

客員教授の先生方のイベントが終わりますと、しばらくは大きなイベントがありません。夏の発表会に向けて、練習に励んでいただく期間になります。

発表会は、8月2日（金）、3日（土）、4日（日）、5日（月）の4日間です。会場は、かつしかシンフォニーヒルズ、アイリスホールです。

生徒さんの中には、4月にピアノのレッスンをはじめたばかり、中には一音会に入会したばかり、という方もいらっしゃると思います。「まだ曲らしい曲は1曲も弾けないから無理だわ・・・」とお考えかもしれませんが、それは違います。

先生の伴奏で、すてきに仕上げることができます。もしおうちの方がピアノをお弾きになれるのであれば、おうちの方との連弾で、ご出演いただくこともできます。かけがえのない思い出になるでしょう。ぜひご相談ください。

お歌をつけて演奏することもできます。発表会当日はマイクをお使いいただけます。歌いながら弾いてくださる生徒さんも、かわいらしくてすてきです。

大きな生徒さんは大きな生徒さんで、忙しい日々の中、なかなか練習時間がとれず、発表会にむけて不安を感じていらっしゃるかもしれません。担当の先生に、なんでも率直にご相談ください。相談しながら、無理のないように、進めていきましょう。

ピアノのレッスンを受けていらっしゃる小さな生徒さんは、リトミック発表で、ご出演いただけます。

また、ピアノでご出演される生徒さんも、リトミック発表にご出演いただけます（その場合、リトミック発表の参加費は無料です）。リトミックのレッスンの中で、発表にむけての練習が、そろそろスタートしていると思います。DVDをお配りしていますので、発表の内容は、おうちでもごらんになってくださいね。

また、今年は「うたくらぶ」の生徒さんが、オペレッタ「ドレミの歌」を演じます。「サウンドオブミュージック」の中の有名なシーンを演じます。

現在、「うたくらぶ」を受講していない生徒さんで、ご興味のある方は、すぐに「うたくらぶ」にご参加ください。まだ間に合います！

◆ リトミック発表、オペレッタ発表のリハーサル

発表会で、リトミック発表（リトミックをご受講）の生徒さん、オペレッタ発表（「うたくらぶ」をご受講）の生徒さんを対象に、リハーサルをおこないます。

それぞれのクラスの中で重ねてきた練習の成果を、広いところで、多くの知らないお友だちといっしょに、披露してみましょう。

いきなり本番ですと、びっくりしたり、とまどってしまったりすることも多いものです。発表会本番の前に、リハーサルを経験しておくことは大切です。リハーサルには、ご参加費用は一切、かかりません。

リトミック発表は、7月15日（祝）と、7月28日（日）におこないます。2日ともご都合のつく方は、ぜひ両方にいらしてください。

オペレッタ発表（ドレミの歌）は、7月28日（日）におこないます。この日、マリア役の先生も参加します。

会場は「ひびきホール」です。演目ごとの時間等、くわしいお知らせは、リトミックのクラスでプリントをお配りいたします。ご不明の点は、リトミックや「うたくらぶ」のスタッフ、もしくは本部にお問い合わせください。

*スクールの生徒さんのご質問を、以下の2つの方法で受け付けています。

メール：1000@ichionkai.co.jp 電話：03-3954-9999

*お電話での質問時間は、毎週月曜日の午後7時～9時です。ただしレッスンがお休みの日は、質問もお休みとさせていただきます。

*ご質問は、お一人でも多くの方のご質問にお答えするために、お1人10分を目安とさせていただきます。ご了承ください。